

# 就学前児童の父親の 育児ストレスに関連する要因について

可知悠子

北里大学医学部公衆衛生学

Kachi Y, Ochi M, Kato T, Otsuka M, Takehara K. Factors related to parenting stress among fathers of preschool children in Japan. *Pediatr Int.* 2022 Jan 17;64(1):e15132. doi: 10.1111/ped.15132.

# 就学前児童の父親の育児ストレスに、 どのような社会経済的・人口統計学的要因が関連するか？

• データ：  
H28国民生活基礎調査

世帯票・健康票

• 分析対象者：17,645人

• 要因：  
社会経済的・人口統計学的  
要因

• アウトカム：  
育児ストレス

• 結果：

表 育児ストレスと関連する社会経済的・人口統計学的要因 (N = 17,645)

	Crude model OR (95% CI)	Adjusted model <sup>a</sup> OR (95% CI)
<b>末子の年齢 (年齢)</b>		
0-2	<b>1.47</b> * (1.30, 1.67)	<b>1.45</b> (1.25, 1.68) *
3-6	1.00	1.00
<b>世帯構造</b>		
両親と子のみ	1.00	1.00
ひとり親と子のみ	<b>10.12</b> (4.9, 20.72) *	<b>12.13</b> (5.60, 26.29) *
両親と祖父母と子	0.82 (0.68, 0.98) *	0.93 (0.73, 1.19)
ひとり親と祖父母と子	<b>3.35</b> (1.73, 6.49) *	<b>4.19</b> (2.04, 8.60) *
その他	0.88 (0.53, 1.47)	1.05 (0.61, 1.83)
<b>学歴</b>		
中学卒	<b>0.52</b> (0.37, 0.74) *	<b>0.54</b> (0.38, 0.77) *
高校卒	<b>0.68</b> (0.59, 0.78) *	<b>0.71</b> (0.61, 0.82) *
専門学校・短期大学卒	<b>0.79</b> (0.66, 0.94) *	<b>0.81</b> (0.68, 0.97) *
大学・大学院卒	1.00	1.00

• 0~2歳の子どもを持つこと、シングルファーザーであること、高学歴であることは、育児ストレスと関連した。

# 背景

- 父親になることは、ライフスタイルや役割の変化を伴い、喜びと同時にストレスを感じることもある。
- 育児ストレスにコンセンサスが得られた定義はないが、心理学では、親の役割や子育てに関わる体験によって引き起こされる苦痛と定義されている。
- 育児ストレスと関連する要因として、  
(1) 妊娠中や出産後の父親のうつや不安、(2) 夫婦関係、  
(3) 子どもの気質、(4) 育児能力の低さなどが報告されている。
- しかし、社会経済的・人口統計学的要因のように、より上流にある要因に焦点を当てたものはほとんどない。

# 目的

就学前児童の父親の育児ストレスに関連する  
社会経済的・人口統計学的要因を  
H28国民生活基礎調査のデータを用いて  
探索的に検討した。

# 方法

■ **対象** : 厚生労働省が実施する**国民生活基礎調査**（2016年）データ（17,645名分）

世帯票・健康票

■ **分析対象** : 0-5歳の子どもを持つ父親（ $n = 18,460$ ）のうち、入院・入所中の父親（ $n = 531$ ）、育児ストレス（ $n = 135$ ）と就労状況（ $n = 149$ ）に欠損値がある者を除いた**17,645名**を対象とした。

■ **調査項目** : **[社会経済的・人口統計学的要因]**

①年齢、②親になった経験、③末子の年齢、④末子の性別、⑤世帯構造、⑥学歴、⑦等価家計支出（五分位）、⑧就労状況、⑨パートナー・妻の就労状況

: **[育児ストレス]**

ストレスは、“日常生活で不安やストレスを感じるか：はい、いいえ”という質問で評価した。“はい”と答えた回答者には、さらにストレスの原因を19の選択肢から尋ねた（複数回答可）。

育児をストレスの原因として選択した場合は「育児ストレスあり」、そうでない場合は「育児ストレスなし」と分類した。

# 方法

## ■統計解析：

- 使用モデル：育児ストレスのオッズ比（OR）と95%信頼区間（CI）を算出  
調整項目なし
- 解析ソフト： SAS 9.4

# 結果 1

表 育児ストレスと関連する社会経済的・人口統計学的要因 (N = 17,645)

	Crude model OR (95% CI)	Adjusted model <sup>a</sup> OR (95% CI)
<b>年齢 (際)</b>		
29	0.95 (0.78, 1.15)	0.87 (0.71, 1.07)
30-39	1.00	1.00
40-49	1.00 (0.87, 1.1)	1.06 (0.92, 1.21)
50+	1.02 (0.68, 1.51)	1.14 (0.76, 1.70)
<b>親としての経験</b>		
はじめての親	<b>1.36 (1.21, 1.53)*</b>	1.09 (0.94, 1.26)
うえの子を持つ親	1.00	1.00
<b>末子の年齢 (年齢)</b>		
0-2	<b>1.47 (1.30, 1.67)*</b>	<b>1.45 (1.25, 1.68)*</b>
3-6	1.00	1.00
欠損値	0.77 (0.62, 0.97)	0.85 (0.66, 1.09)
<b>末子の性別</b>		
男子	0.97 (0.86, 1.10)	1.01 (0.88, 1.15)
女子	1.00	1.00
欠損値	0.65 (0.52, 0.83)	— —
<b>世帯構造</b>		
両親と子のみ	1.00	1.00
ひとり親と子のみ	<b>10.12 (4.9, 20.72)*</b>	<b>12.13 (5.60, 26.29)*</b>
両親と祖父母と子	0.82 (0.68, 0.98)*	0.93 (0.73, 1.19)
ひとり親と祖父母と子	<b>3.35 (1.73, 6.49)*</b>	<b>4.19 (2.04, 8.60)*</b>
その他	0.88 (0.53, 1.47)	1.05 (0.61, 1.83)

# 結果 1 つづき

表 育児ストレスと関連する社会経済的・人口統計学的要因 (N = 17,645)

	Crude model OR (95% CI)	Adjusted model <sup>a</sup> OR (95% CI)
<b>学歴</b>		
中学卒	<b>0.52 (0.37, 0.74)*</b>	<b>0.54 (0.38, 0.77)*</b>
高校卒	<b>0.68 (0.59, 0.78)*</b>	<b>0.71 (0.61, 0.82)*</b>
専門学校・短期大学卒	<b>0.79 (0.66, 0.94)*</b>	<b>0.81 (0.68, 0.97)*</b>
大学・大学院卒	1.00	1.00
欠損値	0.55 (0.44, 0.70)*	0.59 (0.46, 0.75)*
<b>等価家計支出<sup>b</sup></b>		
第1五分位 1 (最も低い)	<b>0.77 (0.64, 0.94)*</b>	0.85 (0.70, 1.04)
第2五分位	0.89 (0.74, 1.07)	0.96 (0.79, 1.16)
第3五分位	0.92 (0.76, 1.10)	0.96 (0.80, 1.15)
第4五分位	0.90 (0.74, 1.09)	0.94 (0.78, 1.14)
第5五分位	1.00	1.00
欠損値	0.49 (0.31, 0.76)*	0.57 (0.36, 0.89)*
<b>就労状況</b>		
無期雇用	1.00	1.00
有期雇用	1.13 (0.91, 1.40)	1.17 (0.94, 1.46)
自営	<b>0.79 (0.66, 0.96)*</b>	0.91 (0.74, 1.11)
その他	0.95 (0.41, 2.17)	1.12 (0.49, 2.60)
無職・専業主夫	1.01 (0.54, 1.86)	0.98 (0.51, 1.88)
<b>パートナー・妻の就労状況</b>		
無期雇用	1.00	1.00
有期雇用	0.84 (0.68, 1.03)	0.88 (0.71, 1.09)
自営	<b>0.64 (0.46, 0.89)*</b>	0.72 (0.51, 1.02)
その他	0.57 (0.29, 1.11)	0.60 (0.31, 1.19)
無職・専業主婦	0.97 (0.85, 1.12)	0.92 (0.80, 1.07)
欠損値	0.94 (0.78, 1.14)	0.98 (0.75, 1.28)



# 考察

- 本横断研究では、全国規模の代表性のあるデータを用いて、就学前児童の父親において、0～2歳の末子がいること、シングルファーザーであること、高学歴であることが子育てストレスと関連することが明らかになった。
- 上記の結果は、子どもが小さいほど育児ストレスが高い (Skreden, Scand J Public Health 2012) 、シングルファーザーは、子育てに必要な資源が少ないため、パートナー・妻がいる父親よりもメンタルヘルスが悪い傾向がある (Kong, PLoS One 2017) とする先行研究と一致していた。
- 学歴に関する先行研究は見当たらないが、高学歴の父親は育児に積極的に関わるため、育児ストレスを感じやすい可能性がある。

(Dotti Sani GM, J Marriage Fam 2016)

# 結論

- 就学前児童の父親の育児ストレスには、子どもの年齢が0～2歳、シングルファーザーであること、高学歴が関連した。
- 母子保健に関わる人々は、これらの要因に留意して父親の育児を支援する必要がある。

# 自己紹介

- 論文発表時は北里大学医学部公衆衛生学で教育・研究に従事しておりましたが、現在は内閣官房こども家庭庁設立準備室で政策の企画・立案に関わっております。

- 連絡先

ご質問等ある方は、下記のメールアドレスまでお問い合わせください。

fmc@ncchd.go.jp